

1. 単元名 「時間割を作ろう」

2. 単元設定の理由

○こんな児童だから

本学級の児童は，年間 10～15 時間ほど外国語活動を行ってきている。ALT の来校は 3 年生まで年間 3 回であったが，4 年生では 15 回に増え，ALT との交流を深めながら外国語活動に取り組んできた。5 年生では，これまでに，天気や曜日，気分などの基本的な挨拶を取り入れたインタビュー活動や，ALT の指示を聞きながら自己紹介カードやオリジナル時間割カードを作成する活動，Show & Tell 形式で自分が作成したカードを紹介し合う活動などを行ってきた。

事前アンケートでは，96% が「外国語活動が好き・だいたい好き」と答え，昨年と比較すると 16 ポイント増加した。主な理由に，「ゲームが楽しいから」「ALT と活動するのが楽しいから」「友達と英語を使ってかかわるのが楽しいから」などがあり，ゲームを通して ALT や友達とかかわることが外国語活動の楽しさにつながっているといえる。外国語活動の中で達成感を感じたことがある児童は 92% で，「英語でインタビューできたから」「自己紹介のとき英語が伝わったから」という理由が多かった。また，英語で人とかかわることに自信がある児童は 71% で，「ALT が教えてくれたから」「ALT が褒めてくれたから」「英語で話せたから」などの理由を挙げていた。一方，自信がないと答えた児童のほとんどが，「間違うと恥ずかしいから」「英語がしゃべれないから」を理由に挙げていた。さらに，英語で褒めたり褒められたりしたことがある児童は 46% だったが，褒められると自信が高まると考えている児童は 79% だった。

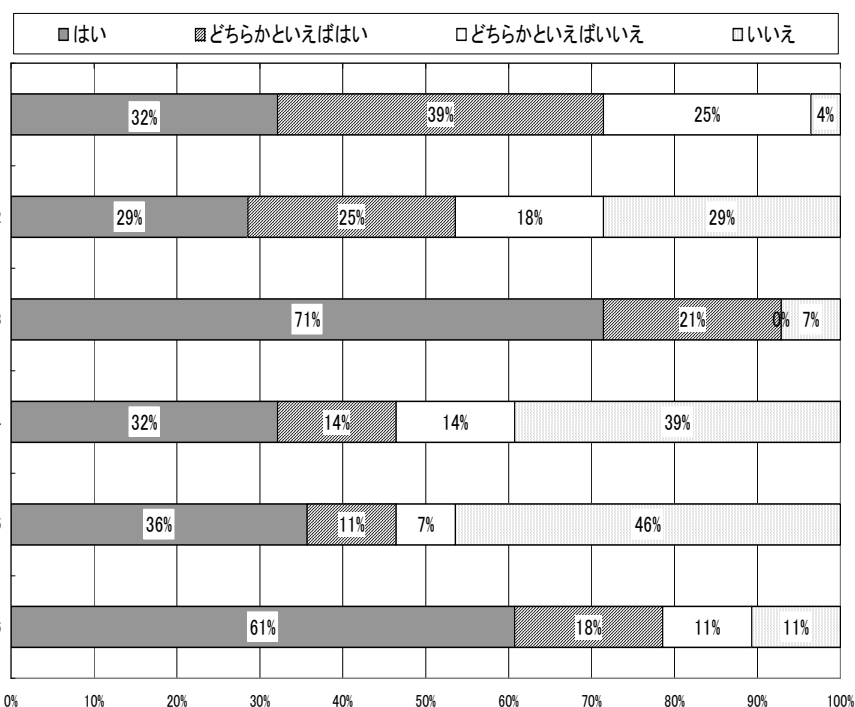
このことから，達成感を得るには「英語が話せた，伝わった」という経験が大きく影響していることや，「教えてもらう，褒められる」という経験が自信につながるものが分かった。また，間違いを恐れる気持ちや英語を話すことへの苦手意識が，コミュニケーションに自信を持つことへの妨げになっていることも分かった。

そこで，「褒める（褒められる）」「達成感を味わう」手立てを工夫すれば，英語でコミュニケーションを図ることへの自信を高められるのではないかと考えた。さらに，活動の中で「人の役に立つ」という経験をするには，コミュニケーションを図ることに苦手意識がある児童にとって，特に有効ではないかと考えた。

資料：事前アンケート

《質問項目》

- ① 英語で人とかかわることに自信がありますか。
- ② 外国語活動で人の役に立つと感じることはありますか。
- ③ 外国語活動で達成感を感じたことはありますか。
- ④ 英語で友達を褒めたことがありますか。
- ⑤ 英語で友達に褒められたことはありますか。
- ⑥ 外国語活動で褒められたら自信がつかえますか。



- 「褒める」「人の役に立つ」「達成感を味わう」外国語活動とは  
 本単元では、コミュニケーションへの自信を高めることをねらいとして、「褒める」「人の役に立つ」「達成感を味わう」という3つのアプローチを図っていく。  
 「褒める」とは、活動の中で"Good!" "Great!" "Good job!" "Excellent!"などの表現やジェスチャーを用いて相手を直接褒めたり、相手のワークシートに花丸をつけてあげたりするような活動である。これまでの外国語活動では HRT や ALT が意識的に行ってきたが、褒める表現を児童にも段階的に教え、友達同士で褒め合うように意識させていく。そうすることで、うまくコミュニケーションを図ることができたという自信が高まると考える。また、多少間違っただとしても一生懸命取り組んでいる姿を重視し、積極的に褒める姿勢をもたせることが大切である。  
 「人の役に立つ」とは、活動の中で戸惑っている友達に教えたり、自分が活動に参加することでグループのタスクが達成されるような場を仕組んだりすることを指す。特に、後者のような活動を仕組むことは、普段の外国語活動において、積極的に友達と英語でかかわることが難しい児童がコミュニケーションへの自信を高めることに有効であると考えられる。  
 「達成感を味わう」とは、「英語で話せた、伝えられた」「相手の英語が分かった」「英語を使って友達と活動をやり遂げることができた」等の思いを味わうことである。児童が尋ねたいことを尋ね、伝えたいことを伝えさせる場を設定すると同時に、友達と協力して1つの目的を達成する場も設定したい。

3. 単元目標

- 世界の小学校の学校生活に興味を持つ。
- 積極的に友達にインタビューしたり、自分の夢の時間割を伝えたりしようとする。
- 教科の名前を使って英語でインタビューしたり、自分の夢の時間割を伝えたりする。
- 英語を使って友達や ALT と活動することを通して、コミュニケーションを図ることへの自信を高める。

4. 単元計画

時	ねらい	主な活動	言語材料
1	外国の小学校では、どのようなものが学習されているのか知るとともに、教科の言い方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT からアメリカの小学 5 年生がどのような学習をしているのかを聞く。</li> <li>・オーストラリアや中国の小学生が学習している教科を知る。</li> <li>・日本の教科の言い方を知る。</li> <li>・好きな教科を尋ねるインタビューゲームをする。</li> </ul>	Japanese, math, science, P.E., art, English, social study, music, home ec., interated study What subject do you like?
2	ALT の英語を聞きながら、夢の時間割カードを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードゲームをして、教科の言い方を復習する。</li> <li>・ALT の英語を聞きながら、時間割カードを作る。必要な教科カードを英語で伝えて受け取る</li> </ul>	上記の教科名 5 math cards, please. cut, fold
3	自分の夢の時間割を友達に伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デモンストレーションを見て、夢の時間割の紹介の仕方を知る。</li> <li>・簡単な英語を使いながら友達と夢の時間割を紹介し合う。</li> <li>・友達のオリジナル時間割を紹介してもらったら、"Good!" "Great!"などと褒める。</li> </ul>	上記の教科名 Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday Good! Great! Good job!
4 本時	インタビュー活動を通して、夢の時間割を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A と B の 2 グループに分ける。</li> <li>・1/2 にカットされた教科カードを 1 枚ずつもらう。A グループの児童が B グループを巡り、Do you have math? などと尋ねながら、ぴったり合うカードを持っているペアを探す。</li> <li>・ペアが見つかったら、黒板の時間割表に貼る。全部のペアが終わったら、A と B の役割を交代する。</li> <li>・早く終わったペアは、他のペアの活動を Good job! などと褒めたり、分からないところを教えたりする。</li> <li>・完成した時間割表を全員で確認する。</li> </ul>	上記の教科名 Do you have ...? Yes, No Thank you Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday Good! Great! Good job!

5. 本時（4 / 4） 平成 21 年 7 月 8 日（水） 5 校時 5 年〇組にて

6. 本時指導の考え方

本学級の児童は、前時までの活動で教科の言い方を知り、それぞれが夢の時間割カードを作成し、Show & Tell 形式で紹介し合う活動を行ってきた。本時は、インフォメーションギャップの要素を取り入れたインタビュー活動を通して、クラス全員でひとつの時間割を完成させる活動を行う。

はじめに、HRT が 5 年 2 組の夢の時間割を考えてきたことを伝え、28 時間分の時間割枠を黒板に提示する。そして、これから行うインタビュー活動を通して、ALT が考えてきた夢の時間割をみんなで作り上げようと説明する。

次に、学級を A と B の 2 グループに分け、縦・横・ななめなどで半分にカットされた教科カードを 1 人 1 枚ずつ配る。これらは、A と B のカードを合わせることで 1 枚が完成するようにしておく。

1 回目は、A の児童が B の児童に "Do you have math?" と尋ねながら、手持ちのカードとぴったり合うカードを持っている友達を探していく。B は自分の席で "math!" などと手持ちのカードをアピールし、ペアにインタビューされるのを待つ。A と B の形がぴったり合えば、裏に書かれている曜日と時間を確認し、黒板の時間割表にカードを貼っていく。早く終わったペアは、他の友達にアドバイスしたり、ペアを見つけられた児童を "Good job!" と褒めたりする。

時間割が完成したら、全員で時間割を見直す。その際、楽しみながら見直すことができるように、あらかじめある教科を多くしておいたり、前時で児童がオリジナル時間割に取り入れていたスペシャル教科を入れておいたりする。2 回目は、A と B の役割を交代して同様のルールで行う。

このような活動を行うことで、「英語が話せた」という達成感だけでなく、「自分が英語で話しかけたり答えたりすることで、みんなで 1 つのタスクを乗り越えることができた」という達成感を味わうことができると考える。また、英語を話すことに苦手意識がある児童は、友達から褒められたり、戸惑っている時に友達からアドバイスをもらったりする活動を通して、コミュニケーションへの自信を高められると考える。

7. 本時の目標

○英語でインタビューし合ったり、友達と賞賛し合ったりする活動を通して、英語で人とかかわることへの達成感を味わう。

8. 準備

教師：1/2 にカットした教科カード，教科・曜日の絵カード，時間割の大枠  
児童：筆記用具

9. 展開

時間	活動内容	教師の支援		指導上の留意点
		HRT	ALT	
4	<b>1 Greeting &amp; Warm up</b> ・ 始めのあいさつ ・ サイコロあいさつゲーム 2つのサイコロ（1つは挨拶の相手，1つは挨拶の方法）をふり，出た目に合わせて友達と挨拶する。	Let's say "Hello" to Mindy.  Warming up time! Let's go!	Hello, everyone. How are you? How is the weather? What day is it today?	・ ジェスチャーやスキミングを取り入れた挨拶を行い，緊張をほぐす。
1	<b>2 Activity</b> (1) ALT が 5 年〇組の「夢の時間割」を考えてきたことを伝え，今日はそれを児童に完成させて欲しいと考えていることを伝える。	Look at the black board. I want you to make a dream schedule of 2kumi.	I made special schedule for 2kumi.	・ 必要以上に日本語は使わず，内容を推測させる。
1	(2) 本時のめあてをつかむ。	友達にインタビューして，2組の時間割を完成させよう。		・ 全員が積極的にかかわり合うことで，目的が達成できることを伝える。
8	(3) 教科や曜日の言い方を復習する。 ・ キーワードゲーム	Today's aim is ~ Let' play Key word game!	Key word is... Are you ready?	・ デモンストレーションで活動の仕方を示す。  ・ コミュニケーションへの自信を高めるために，積極的に友達を誉めるよう促すと同時に，褒め方のモデルを示す。
25	(4) 友達にインタビューして，時間割を完成させる。 ・ A と B の 2 グループに分かれる。 ・ 1/2 にカットされた教科カードを1枚ずつ受け取る。 ・ A の児童は，B の児童に "Do you have math?" とインタビューしていき，ぴったり合うカードを持っているペアを探す。 ・ ペアが見つかったら，裏に書かれている曜日と時間を確認し，黒板の時間割表に貼る。 ・ 早く終わったペアは，他のペアが黒板に貼りに来たら "Good job!" などと褒めたり，分からないところを教えたりする。 ・ 完成した時間割を全員で確認する。	I'll show you how to interview.  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                         Demonstration                          Do you have math?                          Yes.                          Good! Let's go!                           Do you have Japanese?                          No.                          O.K. Thank you.                     </div> Key point is "Praise".	Praise ・ Good! ・ Great! ・ Excellent! ・ Wonderful! ・ Good job!  Let's check. Monday, math, music, Japanese, and P.E.	・ 教師が積極的に活動を褒め，褒め方のモデルを示す。  ・ 楽しみながら確認できるように，予めある教科を多くしておいたり，スペシャル教科を入れておいたりする。
5	<b>3 Reflection</b> ・ 今日の感想や発見を書く。 ・ 感想を発表する	Write your reflection card.		
1	<b>4 Closing</b> ・ 終わりのあいさつ	That's all for today.	See you	